

Q9

聾学校を参観した時に、時事問題についての掲示がありました。どのように意識づけを図ったり、指導につなげたりしているのですか？

まず言語指導の面から、身近なニュースを扱う意義を説明します。

幼稚部では、絵日記を使って「経験したこと」を言葉でやりとりすることを中心に活動します。学校での話し合い活動でも、目の前のことから経験したことを中心に扱います。

小学部から始まる教科指導では、「経験したこと」から「経験していないこと」を言葉でやりとりすることが必要になります。そこで、子どもの関心の高いニュースなどを題材に話し合っていきます。ニュースなどを題材にすることで、内容や語彙が広がるきっかけになります。



次に、「雑学を増やす」ことを目的にニュースなどを扱います。聴覚障害児は聞こえる子のように、耳から雑学的な内容が入りにくいです。丁寧に話し合うことで雑学を増やしていきます。理科や社会の勉強をする前に、「二酸化炭素」や「総理大臣」という普段聞き馴染みの少ない言葉に触れておくことで、つまずきを防ぐことができます。

中学部では、教師や委員会の生徒が取り上げた時事問題を部集会で発表する活動をしています。その後、集会で使った教材は廊下に掲示し、繰り返し目にすることで言葉や内容が定着し、より深く理解できるようになっています。

高等部では、毎日放課後の10分間をモジュール学習として、短い自立活動の時間を実施しています。そこで「セルフマネージメントノート」を書く活動をしています。その中に、今日の気づきメモとして、自分のタブレットで調べたニュースなどを書く欄があります。世界情勢にも興味関心を持ち、自分と関連づけて書くよう促しています。

聾学校では、気になるニュースをそれぞれ取り上げ、気になった文章を書き出す、内容を簡単にまとめる、感想を書くといった学習を行っています。文章を正しく書いたり作ったりする学習活動を繰り返し行うことで、自然と文章の組み立て方や言葉の使い方を意識する事ができるようになってきます。

また、聴覚障害児は「見ればわかる」「見えないことはわかりにくい」ことが多いです。ニュースの動画や、新聞の写真だけでは伝わらない情報を言葉や文字を使ってやりとりすることで、関心が増えてきます。

丁寧にやりとりを続けていくことで力がつくと思います。